

作況ニュース（第3号）

水 稲

（ 発 行：令和7年6月13日 ） （ 編 集：令和7年6月12日 ）

発行：秋田県農林水産部

水 稲

生 育 は 遅 く、 茎 数 は 少 な い

－浅水管理で分けつの促進を－

－異常還元や藻類等による生育抑制に注意－

1 今後の気象の見通し

（1）東北地方1か月予報（6月14日～7月13日）【令和7年6月12日 仙台管区气象台発表】

＜予想される向こう1か月の天候＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目（6月14日～6月20日）は高い確率80%、2週目（6月21日～6月27日）は高い確率70%、3～4週目（6月28日～7月11日）は高い確率60%、です。

- 次回の予報発表予定： 1か月予報 毎週木曜日14時30分
3か月予報 6月24日(火) 14時

【季節予報】

<https://www.jma-net.go.jp/sendai/data/tenkou/forecast/forecast.html>

【2週間予報 毎日随時更新】

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=32>

2 県内の概況

（1）天候の特徴

【秋田地方气象台】

5月下旬： この期間、低気圧や前線、気圧の谷の影響により、曇りや雨の日が多く21日と31日は大雨の所もあったが、後半は高気圧に覆われて晴れた日もあった。

旬平均気温は概ね低い。旬降水量は多く、かなり多い所もあった。旬間日照時間は概ね少なく、かなり少ない所もあった。

6月上旬： この期間、前半は低気圧の影響により曇りや雨の日もあったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

旬平均気温は高いまたは平年並。旬降水量は少ないまたは平年並で、南部ではかなり少ない所もあった。旬間日照時間は多いまたは平年並。

〔旬統計値（秋田市）〕

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (hr)	平年比 (%)	階級区分
5月下旬	16.0	-0.9	低い	70.5	184	かなり多い	61.8	86	少ない
6月上旬	19.1	+0.7	高い	11.5	49	平年並	75.6	110	平年並

（２）本田の生育

１）移植栽培

各地域振興局による定点調査（６月10日）では、あきたこまち（63地点）は、草丈22.8cm（平年比90%）、㎡当たり茎数108本（同77%）、葉数5.6葉（平年差-0.5葉）であった。ひとめぼれ（８地点）は、草丈25.3cm（平年比91%）、㎡当たり茎数165本（同70%）、葉数6.1葉（平年差-0.5葉）であった。（表－１）

定点調査ほの移植日の平均は、あきたこまちが平年より１日遅い５月20日、ひとめぼれが平年より３日遅い５月19日であった。

茎数は全県的に平年よりかなり少なく、あきたこまちは県北で平年比72%、中央で同77%、県南で同82%だった。

茎数が少ない要因としては、移植後の低温や日照不足により、水温や地温の上昇が緩慢だったと推定され、生育が遅れ、初期分げつの発生が抑制されたためと考えられる。

表－１ 定点調査結果（６月10日調査）

品種	地区	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
あきたこまち	県北	23.1	91	87	118	82	72	5.8	-0.6	-0.5
	中央	23.0	90	91	114	83	77	6.0	-0.5	-0.3
	県南	22.5	90	93	98	96	82	5.4	-0.6	-0.4
	全県	22.8	90	90	108	87	77	5.6	-0.7	-0.5
ひとめぼれ	中央	25.3	92	91	165	80	70	6.1	-0.4	-0.5

※平年値：H27～R6までの過去10年平均

農試の気象感応試験において、標植区では草丈と茎数が平年を下回り、葉数も少なかった。葉数の進展からみると未発生の分げつもあるが、初期分げつの発生が抑制されていることが考えられる。

晩植区では葉数は少ないものの、草丈と茎数は平年並だった。

表－２ 気象感応試験の生育状況（あきたこまち、６月10日調査）

試験区	移植日	草 丈			㎡当たり茎数			葉 数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
標植	５月15日	24.9	91	94	138	49	61	6.6	-0.7	-0.4
晩植	５月26日	23.5	91	101	122	72	99	5.7	-0.4	-0.3

注) 平年値は、標植はH12～R6、晩植はH29～R6の平均。

２）直播栽培

６月10日現在の農試及び定点の生育概況は、全県平均で苗立率は56.5%、㎡当たり苗立数は83本、草丈13.2cm、㎡当たり茎数は88本、葉数は4.0葉であった。平年より苗立数及び㎡当たり茎数は少なく、草丈は短く、葉数は平年並であった。（表－３）

表－３ 定点調査結果（湛水土中条播、あきたこまち、農試および農業振興普及課調査６月10日調査）

設置場所	播種月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	㎡当たり苗立数			草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		播種 10日後	播種 20日後		本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
農試	5/9	12.5	33.3	33.3	46	56	55	14.8	77	85	52	53	43	3.5	-0.9	-0.6
大館市	5/13	34.2	38.3	38.3	73	65	69	11.2	69	65	73	65	55	3.7	-0.4	-0.3
井川町	5/8	57.6	60.2	65.6	82	85	80	12.3	77	80	101	74	65	4.3	-0.6	-0.1
美郷町	5/12	67.7	70.4	87.5	140	124	147	15.8	96	91	140	124	111	4.4	+0.2	-0.1
横手市	5/15	53.0	57.7	57.7	77	96	83	11.7	85	91	77	77	72	3.8	-0.1	+0.4
全県	5/11	45.0	52.0	56.5	83	85	87	13.2	81	82	88	79	69	4.0	-0.3	-0.1

注) 平年値は、H27～R6の平均。

*農試：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（実測値）×100

その他地点：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（播種量からの推定）×100

（３）病害虫の発生概況

１）斑点米カメムシ類

牧草地すくい取り調査（大仙市）における越冬世代成虫の発生時期は、アカヒゲホソミドリカスミカメが５月22日（平年５月22日）、アカスジカスミカメが６月５日（平年６月３日）でいずれも平年並だった。

3 当面の技術対策（6月中旬～下旬）

初期生育が遅れているほ場が多く、茎数も少ない。作況指数95だった令和4年の作柄低下要因である「穂数不足」の発端は、「初期茎数不足」だったことをふまえ、6月下旬までに有効茎を確保できるよう、浅水管理を徹底する。

また、藻類や表層はく離、ワキなども増加しており、ほ場の状況や生育状況に応じたきめ細かな栽培管理を徹底する。

今後も気温が高い予報であり、茎数確保のための基本技術に加え、病虫害防除や雑草防除も適切に実施する。

（1）水管理

分けつ発生が少なく、茎数の少ないほ場が多いことから、浅水管理を徹底して分けつの発生を促進する。また、水温と地温を高めて日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行う。中苗の移植栽培では第3号から第6号までの1次分けつ、直播栽培では第1号から第4号までの1次分けつを確保する。

また、5月に低温期間があったものの6月2半旬は高温になり、藻類の発生や表層はく離、ワキなどの土壌の異常還元がみられるほ場が多くなっている。今後も高温が予想されることから還元しやすいほ場や既に異常還元しているほ場では、短期間の落水や水の入れ替えを行い、水稻生育への影響を低減する。

目標茎数を確保したら、中干しを開始し、新たな分けつを抑制する。なお、落水しにくいほ場や異常還元が生じているほ場は、中干しに併せて溝切り等を行い、速やかな排水を図る。

（2）表層はく離・藻類等の防除

表層はく離やアオミドロ等の発生が多くなると地温や水温が低下し、生育が抑制されるので適切な対策を講ずる。対策としては、気温の低い早朝や雨の日の水の入れ替えを基本とする。移植栽培において、水管理で十分な効果が見られない場合は、中耕機による攪拌やモグトン粒剤（ACN剤）を散布する。

（3）直播栽培の追肥

目標の苗立数（ m^2 当たり80～100本）を確保している場合は、2～4葉期の追肥は必要ないが、苗立数が60本以下の場合は10a当たり窒素成分で2kg以下の追肥を行う。5葉期以降の追肥は倒伏を招くので行わない。

（4）余り苗の処分

余り苗で発生したいもち病は、周辺ほ場への強力な伝染源となるので、余り苗は土中に埋めるなどして直ちに処分する。

(5) 葉いもち防除

移植栽培での葉いもちの全般発生開始期は平年で7月6日であるが、全般発生開始期が早まると葉いもちや穂いもちが多くなる傾向がある。葉いもち防除のための水面施用剤は初期の発病を抑えることで葉いもちの発生量を少なくするので、側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、遅くとも6月18日までにオリゼメート粒剤（2 kg/10a）かルーチン粒剤（1 kg/10a）を水面施用する。

直播栽培では移植栽培に比べて葉いもちの全般発生開始期が遅れる傾向があるため、葉いもちに効果のある種子塗沫剤を処理していない場合や、播種時に側条施用剤等を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤（2 kg/10a）かルーチン粒剤（1 kg/10a）を水面施用する。

（令和7年度版秋田県農作物病害虫・雑草防除基準（以下、防除基準）p. 24～26、42～43参照）

(6) 初期害虫の防除

移植日の遅いほ場や直播栽培では生育量が小さいため、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネミズゾウムシ等の初期害虫による食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除する。（防除基準p. 31～37、44～45参照）

(7) ばか苗病の対策

採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと土中に埋めて処分する。発病株の処分は遅くとも6月末までに終わる。

(8) 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するので、下記（9）を参照し、水田内の除草に努める。

また、斑点米カメムシ類は農道・畦畔などのイネ科雑草でも増殖する。そのため、農道・畦畔や法面、休耕田等の雑草地は、地域でまとまって一斉に除草し、密度低下を図る。（防除基準p. 38～40参照）

(9) 中・後期除草剤の適正使用

中・後期剤の使用にあたっては、ほ場の発生草種や生育程度を観察して、それぞれの雑草に除草効果の高い剤を選択する。用水確保が難しいほ場では茎葉散布剤の使用など、ほ場条件に合わせて防除する。

1) 移植栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤の使用時期はノビエ4葉期までだが、効果発現に日数を多く要するので早めに散布する。クリンチャー剤は粒剤、ジャンボ剤、液剤によって使用時期や使用量が異なる。また、クリンチャー剤は散布後に発生したノビエには効果がない。
- ②ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、アトトリ豆つぶ250、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC、フォローアップ1キロ粒剤／ワイドアタックD1キロ粒剤で対応する。(防除基準p.323～328参照)

2) 直播栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、クリンチャー剤、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤のいずれかを散布する。
- ②ノビエ以外の難防除雑草(ホタルイ、コナギ、オモダカ等)が主に見られる場合は、バサグラン液剤を散布する。
- ③ノビエ及び難防除雑草が見られる場合は、ザーベックスDX1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCを散布する。
(防除基準p.329～333、p.340～341参照)

(10) 農薬の飛散・流出防止の徹底

農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

(11) 農作業安全対策の徹底

次の注意事項を守り、十分な安全対策を講ずる。また、これから気温が高くなる時期を迎えるため、こまめな水分補給や休憩を取るなど、農作業中の熱中症対策を行う。

- ①体調管理を万全にし、心身とも健康な状態で作業を実施する。
- ②作業は計画的に実施し、長時間や夜間の作業は避ける。
- ③運行する道路やほ場の危険箇所を確認する。
- ④点検・修理はエンジンを停止して行う。
- ⑤機械の点検・整備を徹底する。
- ⑥軽トラック、トラクタ運転時のシートベルトの着用を徹底する。
- ⑦日中の気温の高い時間帯を避けて作業する。
- ⑧帽子や送風機、スポットクーラー等の熱中症予防グッズを活用する。
- ⑨単独作業は避け、声かけ等により体調に異常がないか確認しながら作業を行う。

【時期別・主要作業別指導事項】

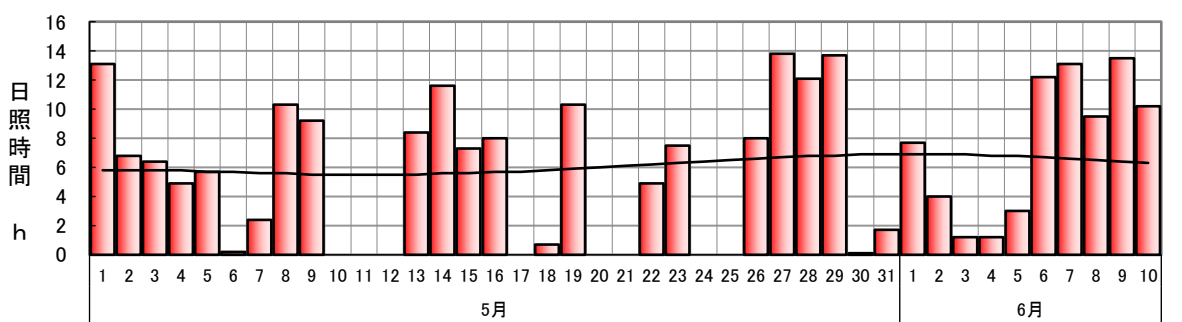
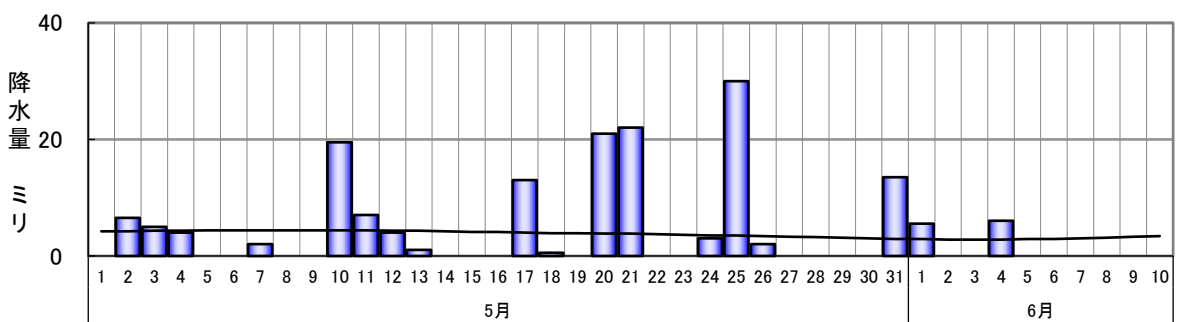
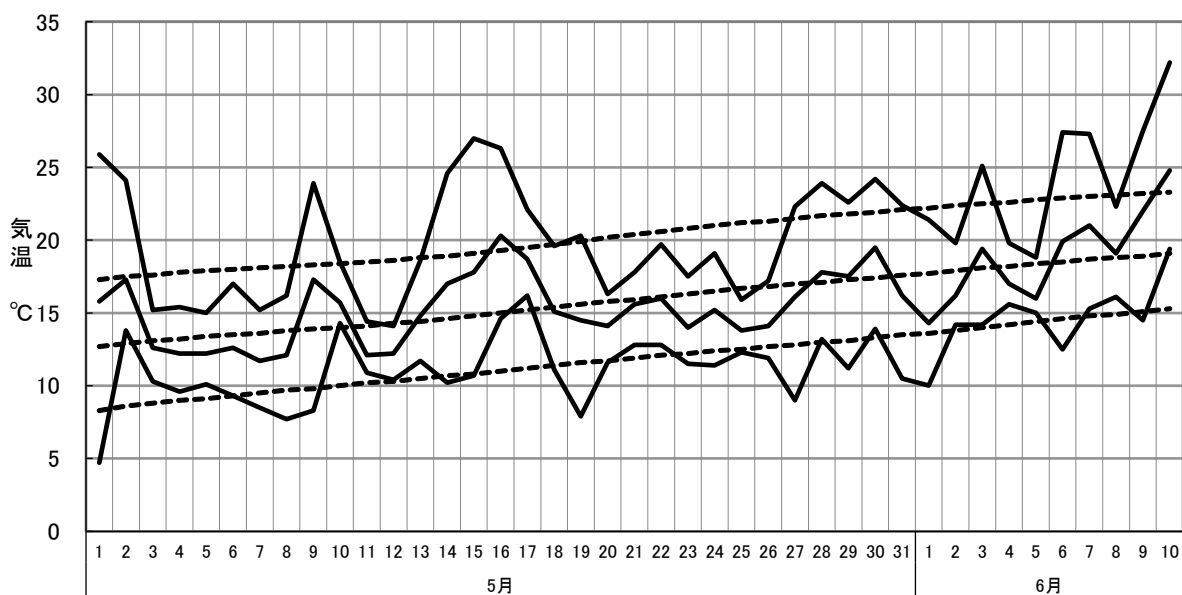
月 旬	作業の種類	主 な 指 導 事 項
6 月中旬 ～ 6 月下旬	水管理	○ 浅水管理の徹底により分けつの確保に努める。 ○ かん水は早朝に行い、短時間で終えるようにする。 ○ 目標茎数を確保したら、中干しで分けつを抑制する。 ○ 落水しにくいほ場や異常還元ほ場では、中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図る。
	直播栽培の追肥	○ 苗立数が60本/㎡以下の場合は、4 葉期までに10a当たり窒素成分で2 kg以下の追肥を行う。
	余り苗の処分	○ 余り苗にいもち病が発生すると強力な伝染源となるので、余り苗は、土中へ埋めるなどして直ちに処分する。
	葉いもち防除	○ 移植栽培で側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、遅くとも6月18日までにオリゼメート粒剤かルーチン粒剤を散布する。 ○ 直播栽培では、播種前や播種時に防除剤を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤かルーチン粒剤を散布する。
	初期害虫の防除	○ 害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除する。
	畦畔等雑草の管理	○ 斑点米カメムシ類の増殖を抑える（密度低下）ため、草刈りなど雑草管理は地域でまとまって行う。
	表層剥離・藻類等の防除	○ 水の入れ替えで対応する。 ○ 移植栽培では必要に応じて中耕機による攪拌やモゲトン粒剤（ACN剤）を散布する。
	中・後期除草剤の適正使用（移植栽培）	○ ノビエが見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。 ○ ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC等で対応する。
	ばか苗病の対策	○ 採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと抜き取って土中に埋めて処分する。 ○ 発病株の処分は遅くとも6月末までに終える。
	農薬飛散・流出防止	○ 農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

資 料 編

1 気象経過

(1) 令和7年5月1日から6月10日の気象経過図(観測地点：秋田地方気象台)

(気象庁HPより)



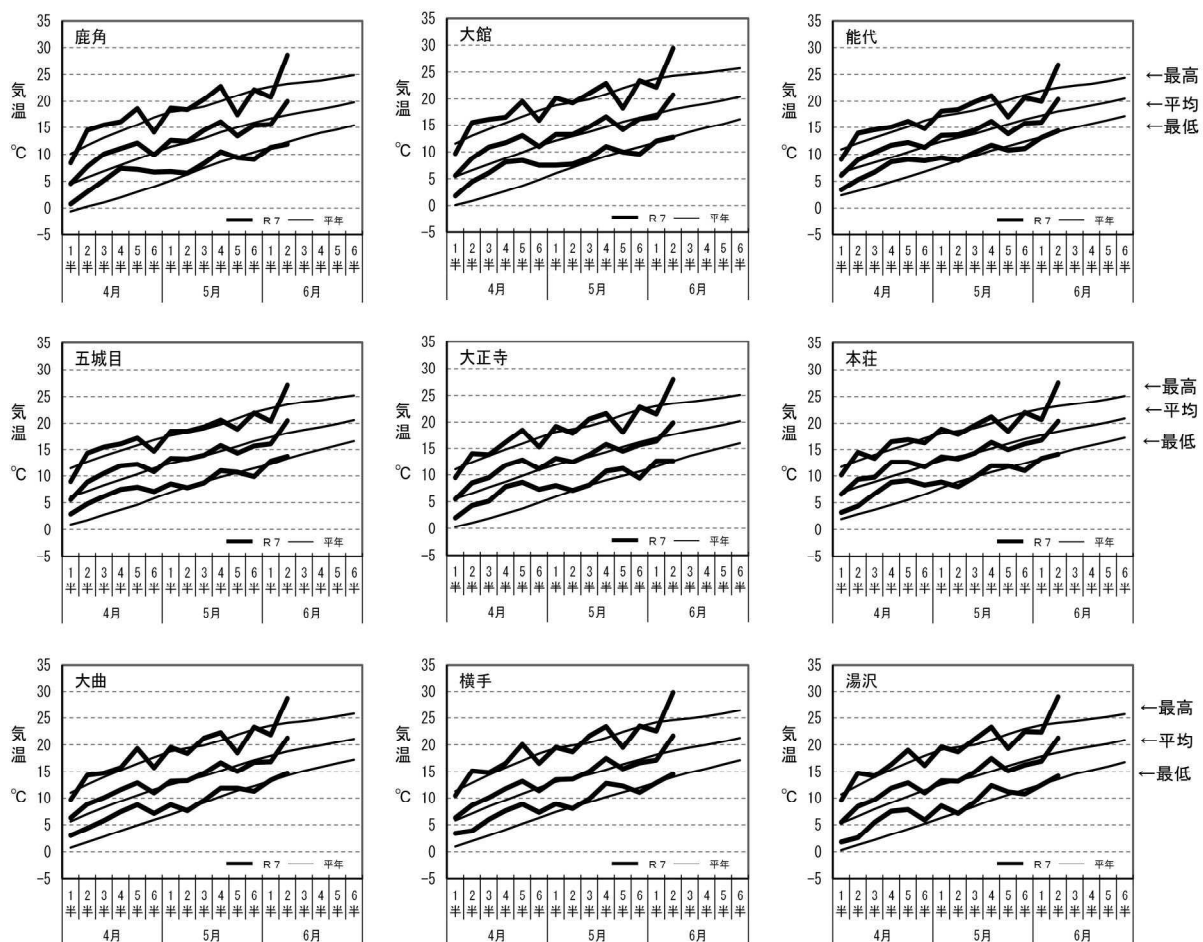
(2) 旬別気象状況 (秋田市)

(秋田地方気象台HPより)

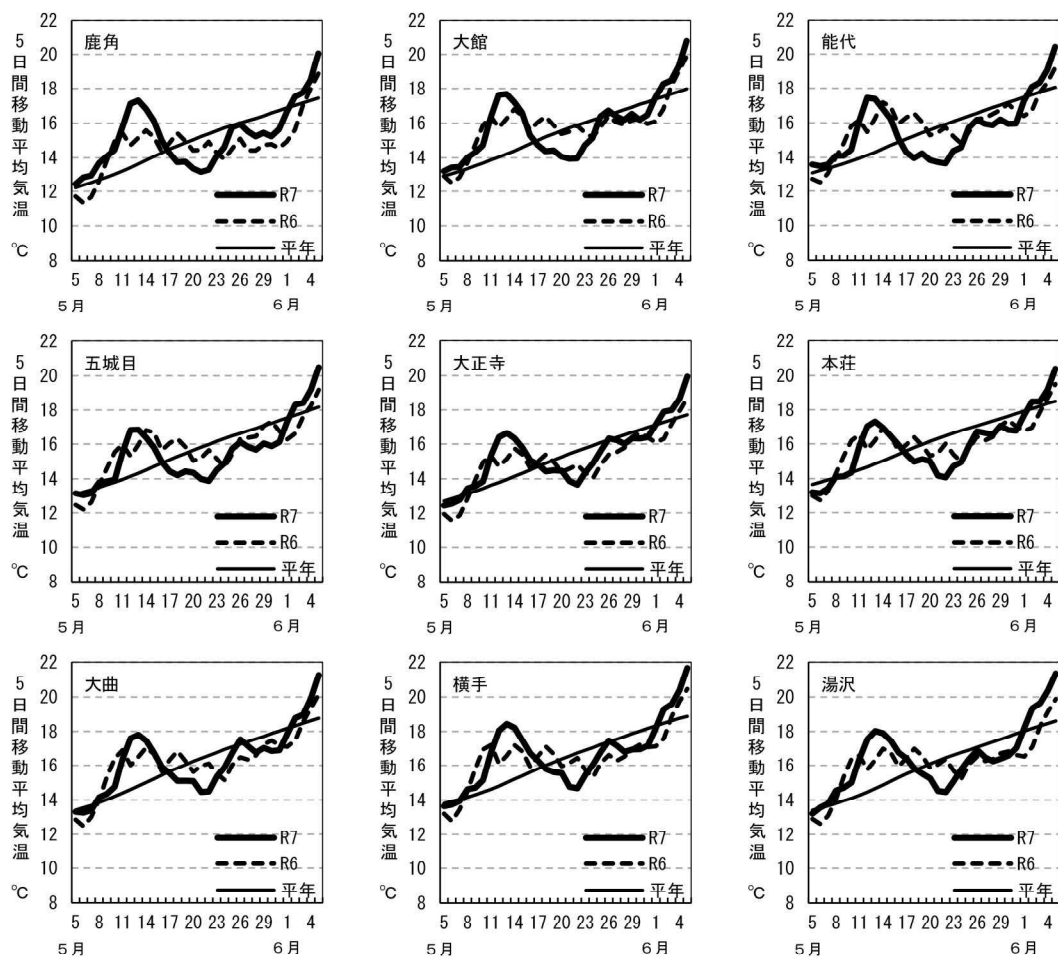
時 期 項 目	5 月上旬		5 月中旬		5 月下旬		5 月 計	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
平均気温(℃)	14.0	+0.4	15.7	+0.9	16.0	-0.9	15.2	±0
降 水 量(mm)	37.0	83%	46.5	111%	70.5	184%	154.0	123%
日照時間(h)	59.0	103%	46.3	83%	61.8	86%	167.1	90%

時 期 項 目	6 月上旬	
	本 年	平年比較
平均気温(℃)	19.1	+0.7
降 水 量(mm)	11.5	49%
日照時間(h)	75.6	110%

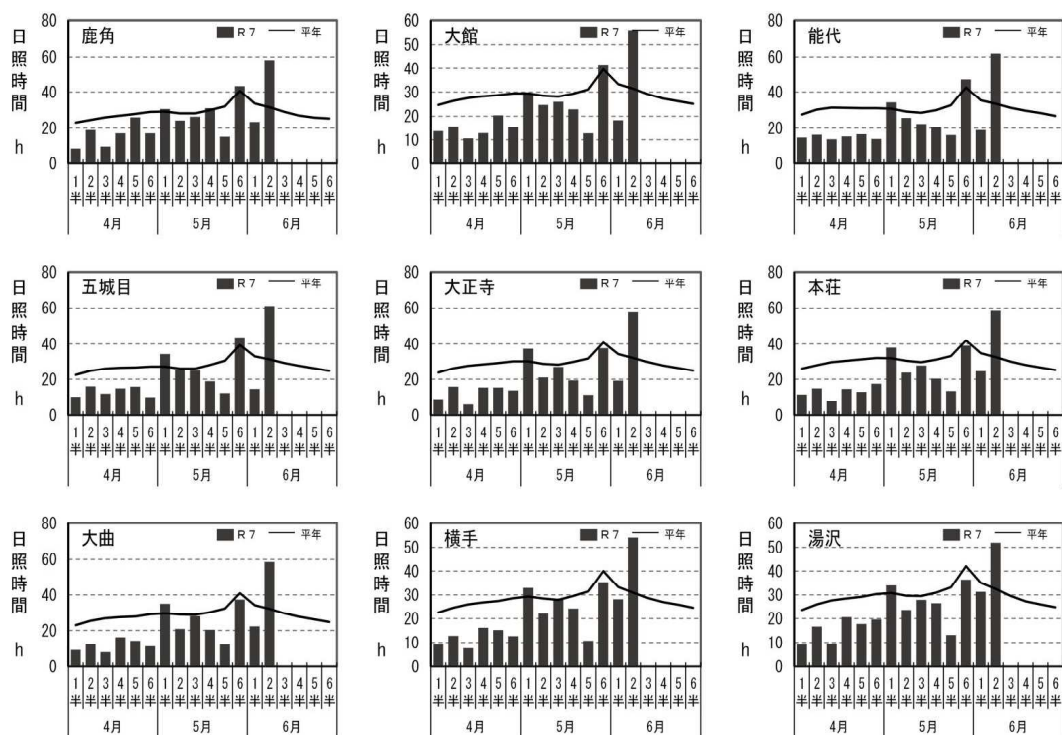
(3) 各地域の気象経過



図－1 各地域の気温の推移(半旬別、アメダス観測地点別、6月10日現在)



図－2 各地域の5日間移動平均気温の推移(アメダス観測地点別、5月5日～6月5日まで)



図－3 各地域の日照時間の推移(半旬別、アメダス観測地点別、6月10日現在)

2 農作業進捗調査結果（各地域振興局調査）

区分	地域	始期（5%）			盛期（50%）			終期（95%）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
田植作業	県北	5/16	5/14	5/14	5/24	5/21	5/22	5/31	5/29	5/28
	中央	5/10	5/9	5/9	5/21	5/18	5/18	6/1	5/30	5/30
	県南	5/17	5/16	5/17	5/25	5/24	5/24	6/1	6/2	5/31
	全県	5/12	5/12	5/12	5/24	5/22	5/23	6/1	5/31	5/30

3 水稻定点調査結果（各地域振興局 6 月10日調査）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
鹿 角	5	22.2	88	85	97	77	58	5.7	-0.8	-0.6
北秋田	9	23.5	91	87	148	89	81	5.9	-0.6	-0.5
山 本	9	23.2	92	87	99	75	68	5.7	-0.6	-0.6
秋 田	9	22.2	87	86	111	79	72	6.2	-0.5	-0.3
由 利	2	26.6	99	114	125	102	106	5.3	-0.5	-0.3
仙 北	10	22.9	90	92	99	81	72	5.5	-0.6	-0.4
平 鹿	11	21.8	93	94	85	104	83	5.2	-0.5	-0.4
雄 勝	8	23.2	87	92	116	112	97	5.4	-0.9	-0.6
全県平均	63	22.8	90	90	108	87	77	5.6	-0.7	-0.5
6月10日の 理想生育量		目標	下限	上限	目標	下限	上限	目標	下限	上限
	県北	24	23	26	159	140	179	6.2	5.9	6.4
	中央	25	23	27	174	145	204	6.3	6.0	6.6
	県南	24	23	25	125	113	138	5.8	5.6	6.0

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
秋田	2	23.4	93	89	178	92	75	6.3	-0.2	-0.1
由利	6	25.9	92	91	161	76	68	6.0	-0.5	-0.7
中央地区平均	8	25.3	92	91	165	80	70	6.1	-0.4	-0.5

4 関連成績

(1) 気象感応試験（あきたこまち）

1) 生育概況

標植では、草丈が24.9cm（平年比94%）で平年より短く、㎡当たり茎数は138本（同61%）でかなり少なく、葉数は6.6葉（平年差－0.4葉）で少なかった。晩植では、草丈は23.5cm（平年比101%）で平年並、㎡当たり茎数は122本（同99%）で平年並だったが、葉数は5.7葉（平年差－0.3葉）で少なかった。

表－3 気象感応試験の生育状況（6月10日調査）

試験区	移植日	草 丈					㎡当たり茎数					葉 数				
		R7 cm	R6 cm	R6比 %	平年 cm	平年比 %	R7 本	R6 本	R6比 %	平年 本	平年比 %	R7 葉	R6 葉	R6差 葉	平年 葉	平年差 葉
標植	5月15日	24.9	27.5	91	26.6	94	138	279	49	227	61	6.6	7.3	-0.7	7.0	-0.4
晩植	5月26日	23.5	25.8	91	23.2	101	122	168	72	123	99	5.7	6.2	-0.4	6.0	-0.3

注) 平年値は、標植はH12～R6、晩植はH29～R6の平均。

移植時の葉数は、標植では平年差-0.3葉、晩植では平年並の-0.1葉だった。

標植は5葉の出葉が平年より2日遅く、6葉と7葉は3日遅かった。5月5半旬の低温と少照により、出葉は鈍化したと考えられた。

晩植では、5葉と6葉とも1日遅い程度で出葉し、平年並で推移した。

表－4 出葉状況（6月10日現在）

試験区	年次	出葉期								
		5葉	6葉	7葉	8葉	9葉	10葉	11葉	12葉	13葉
標植 (5月15日移植 基準)	R7	5/25	6/1	6/7						
	R6	5/23	5/30	6/4	6/9	6/14	6/18	6/25	7/6	7/14
	平年	5/23	5/29	6/4	6/11	6/16	6/22	7/1	7/11	7/18
	平年差	+2	+3	+3						
晩植 (5月25日移植 基準)	R7	6/1	6/7							
	R6	5/31	6/6	6/10	6/14	6/20	6/24	7/2	7/11	7/19
	平年	5/31	6/6	6/11	6/16	6/21	6/27	7/4	7/13	7/21
	平年差	+1	+1							

注: 標植の平年値は、H12～R6までの平均。晩植の平年値は、H29～R6までの平均。

移植時葉数の平年値は標植は3.4葉、晩植は3.6葉。本年は標植は3.2葉、晩植は3.5葉。

2) 分げつの発生状況（6月10日調査）

標植の調査株における分げつの初発生は6月2日で平年より7日遅く、次節位別の発生では、1次2節位分げつが10個体当たり3本（平年3本）で平年並だが、3節位の分げつは4本（同7本）と平年より少なく経過している。

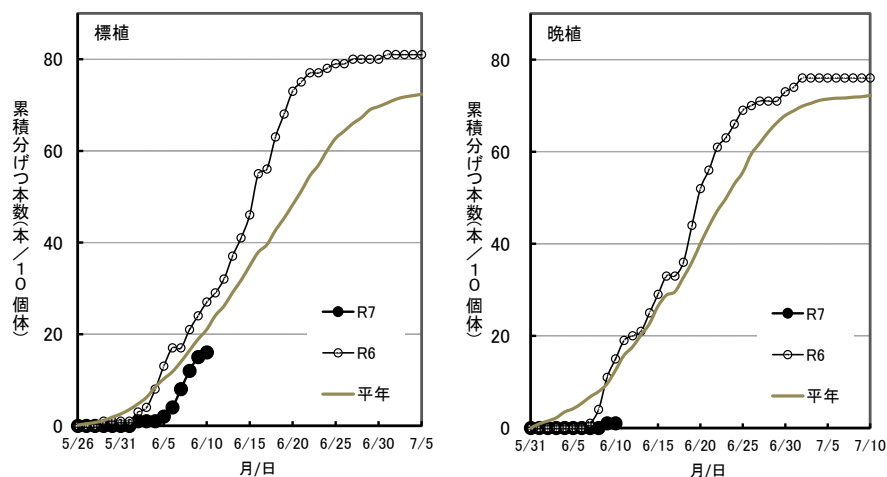
晩植の調査株では、分げつの初発生は6月9日で平年より8日遅く、前年より2日遅かった。また、その後の発生も停滞傾向である。

表－５ 次節位別分げつの発生本数（6月10日現在）

試験 区	6/10 葉数	1次分げつ						2次分げつ		分げつ 合計
		1節	2節	3節	4節	5節	6節	2節	3節	
標植	6.6	1	3	4	9					17
(平年)	7.0	0	3	7	10	10	10	2	9	73
晩植	5.7	0	0	1						1
(平年)	6.0	1	3	7	10	10	10	2	8	72

注1) 四捨五入の関係により 各分げつの合計と”分げつ合計”は必ずしも一致しない。

注2) 平年：標植はH13～R6までの最終発生数の平均、晩植はH29～R6までの最終発生数の平均



図－４ 分げつの発生状況（6月10日現在）

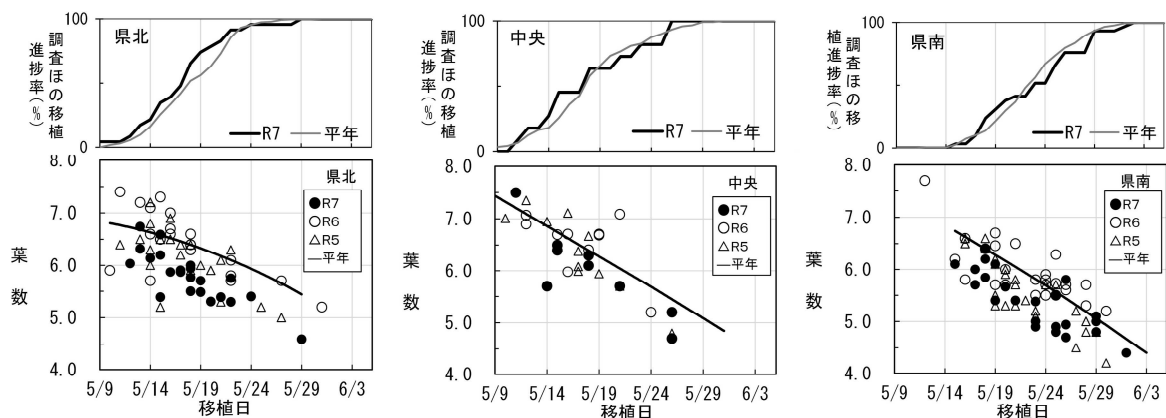
5月15日移植の標植においては、5/20～26の低温と移植以降の少照により、初期生育は停滞したと推定される。なお、6月2半旬の好天により、分げつ発生が活発になり始めていると考えられる。

5月25日移植の晩植では、移植日～1日後は低温だったが、その後は概ね平年並の経過だった。しかし5月末～6月1半旬の少照により、地温の上昇が抑制され、分げつ発生に影響したと考えられる。

3) 定点（あきたこまち）の生育状況

調査対象ほ場の移植の進捗は、県北では平年よりやや早く経過したが、中央と県南は5月20日頃まではやや早く経過し、20日頃以降は平年より遅く経過した。また6月10日現在の葉数は、全県平均の平年差で－0.5葉であり、平年を大きく下回った。

育苗期間中の少照などの不順な気象により苗の生育がやや抑えられ、移植後も低温や少照により、生育の遅れと初期分げつの発生が抑制されている。

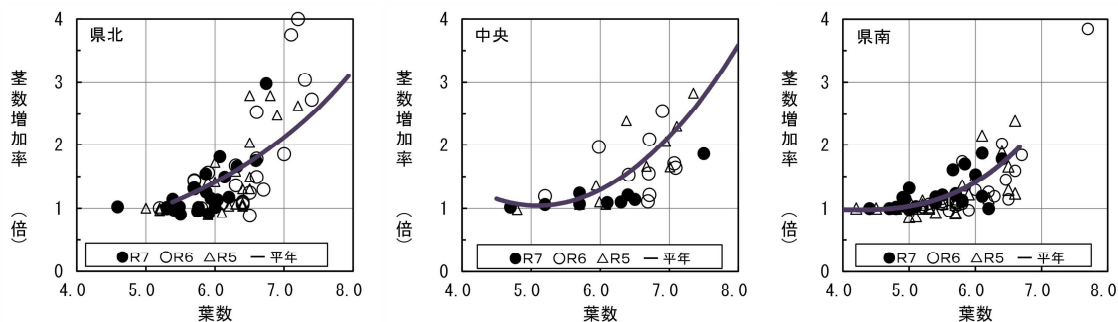


図－5 調査ほ場の移植進捗率(上段)および移植日と葉数の関係(下段)

(6月10日定点調査、平年はH27～R6の平均を近似線で平準化して表示)

調査ほ場の葉数と茎数増加率の関係では、県北は6.0葉前後で茎数増加率の低いほ場が見られる。中央では6.0葉以上のほ場で茎数増加率が平年水準より低い。県南は、移植時期が遅いため6.0葉未満のほ場が多く、茎数増加率も低い。

総じて葉数の少ないほ場が多く、茎数増加率も低いため、適切な水管理を徹底し、茎数確保を最優先する。



図－6 葉数と茎数増加率の関係

(6月10日定点調査、平年はH27～R6の平均を近似線で平準化して表示)

茎数増加率＝茎数÷植え付け本数

(注：中苗の場合、主茎第6葉伸展中(5.1～6.0葉)に3号分けつ(以下3号)、主茎第7葉伸展中(6.1～7.0葉)に4号分けつ(以下4号)が発生。植え込み本数に対して3号のみが全主茎に発生した場合、茎数増加率は2。さらに4号が完全に発生した場合の茎数増加率は3になる。)

(2) 直播作況試験

1) 直播水稻の出芽・苗立

農業試験場の m^2 当たり播種粒数は140粒（平年138粒）であった。苗立率は33.3%で、平年差-28.8ポイントと平年よりも低くなった。 m^2 当たり苗立数は46本となり平年より少なくなった。苗立ち不良の要因としては、播種後5日間の降雨日が4日と多く、十分な落水条件とならなかったことが考えられる（表-6）。

本年の移動平均気温は5月6日～14日にかけて、平年よりも高く経過したが、5月16日以降は低く経過した。（図-7）

播種後、出芽始期（出芽率10%に達した日）までは10日（平年差+2日）、播種から出芽揃期（苗立数の90%が出芽した日）までは15日（同+1日）と、出芽始期、出芽揃期ともに平年よりもやや遅くなった。（図-8、9）

表-6 農試直播作柄解析ほ場の苗立（あきたこまち、湛水土中条播、6月10日調査）

播種 月日	苗立率			m^2 当たり苗立数		
	本年 (%)	前年差	平年差	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)
5/9	33.3	-25.4	-28.8	46	56	55

注）平年値：過去10年間（H27～R6）の平均値

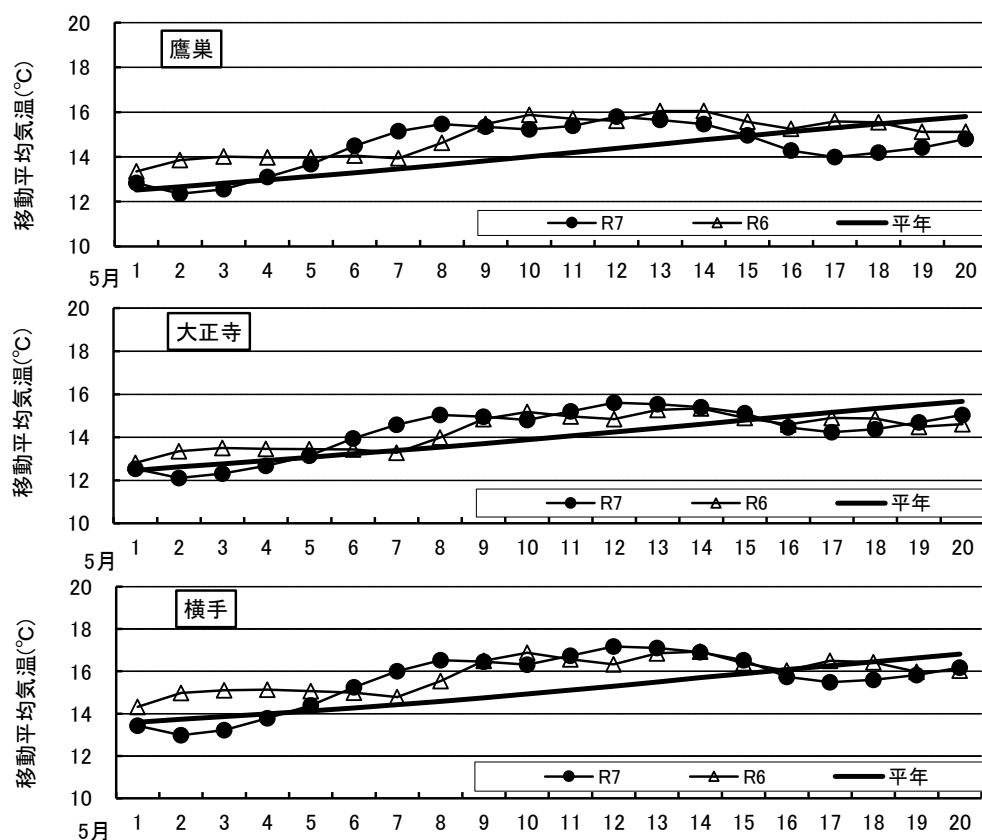
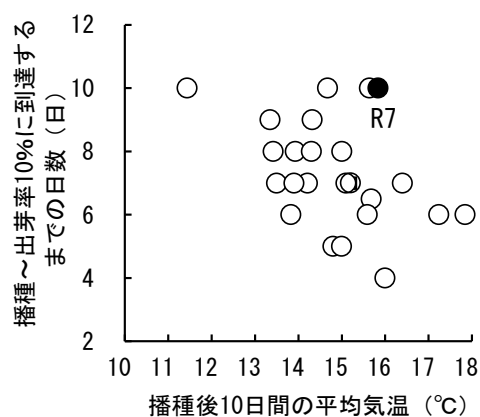
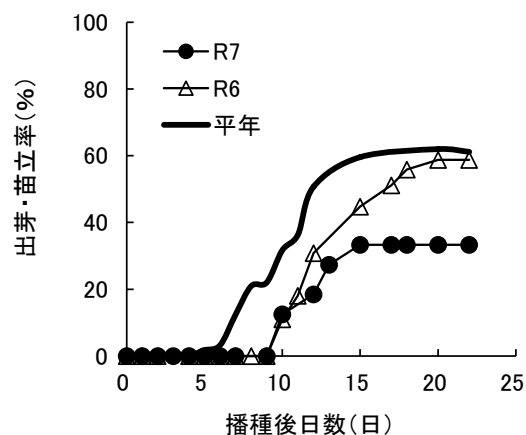


図-7 播種翌日から10日間の移動平均気温（アメダスデータ）



図－8 播種後10日間の平均気温と
出芽率の関係(H14～R7)



図－9 出芽・苗立率の推移

注) 平年値：過去10年間（H27～R6）の平均値

2) 直播水稻の生育概況（6月10日現在）

6月10日調査の生育状況は、草丈14.8cm（平年比85%）、 m^2 当たり茎数は52本（同43%）、茎数増加比は1.1（平年差－0.3）、葉数は3.5葉（同－0.6葉）であった。（表－7）

本年の農業試験場における直播水稻の生育は、平年よりも草丈は短く、 m^2 当たり茎数は少なく、葉数は少なくなった。

表－7 農試直播作況ほ場の生育概況（あきたこまち、湛水土中条播、5月9日播種、6月10日調査）

調査 月日	草丈			m^2 当たり茎数			茎数増加比			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年 (葉)	前年 差 (葉)	平年差 (葉)
6/10	14.8	77	85	52	53	43	1.1	±0	－0.3	3.5	－0.9	－0.6

注1) 平年値：過去10年間（H27～R6）の平均値

注2) 茎数増加比＝茎数/苗立数

注3) 苗立数は6月10日現在で m^2 当たり46本（平年比55%）

各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXでお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿 角 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山 本 地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋 田 地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由 利 地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-8354	0184-22-6974
仙 北 地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平 鹿 地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄 勝 地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

OSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）LINEで情報発信を行っています

秋田県稲作技術情報

「秋田の米ぢから」



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信しています。

<主な配信内容>

- ・ 秋田県内の水稻の生育状況
- ・ 水稻および大豆の技術情報
- ・ 異常気象対策
- ・ その他、秋田米に関する情報



こちらのQRコードから
登録できます

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場

作物部

生産環境部

秋田県病害虫防除所

秋田地方气象台

東北農政局秋田県拠点

秋田県農林水産部水田総合利用課（農産・複合推進チーム）

園芸振興課（調整・普及チーム）

TEL 018-881-3330

内線(422・423・424)

内線(306・310)

TEL 018-881-3660

TEL 018-864-3955

TEL 018-895-7303

TEL 018-860-1786

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は6月30日（月）の予定です】